

高崎城下町探訪

— 歴史と文化財 —



高崎藩歴代藩主

藩主	期(西暦)	石高(当初)
初代 井伊直政	慶長3年~慶長5年 (1598~1600)	120,000石
城番 諏訪頼水	慶長5年~慶長6年 (1600~1601)	—
2代 酒井家次	慶長9年~元和2年 (1604~1616)	50,000石
3代 松平(戸田)康長	元和2年~元和3年 (1616~1617)	50,000石
4代 松平(藤井)信吉	元和3年~元和5年 (1617~1619)	50,000石
5代 安藤重信	元和5年~元和7年 (1619~1621)	56,600石
6代 重長	元和7年~明暦3年 (1621~1657)	56,600石
7代 重博	明暦3年~元禄8年 (1657~1695)	60,000石
8代 松平(大河内)輝貞	元禄8年~宝永7年 (1695~1710)	52,000石
9代 間部詮房	宝永7年~享保2年 (1710~1717)	50,000石
10代 松平(大河内)輝貞	享保2年~延享2年 (1717~1745)	72,000石
11代 輝規	延享2年~寛延2年 (1745~1749)	72,000石
12代 輝高	寛延2年~天明元年 (1749~1781)	72,000石
13代 輝和	天明元年~寛政12年 (1781~1800)	82,000石
14代 輝延	寛政12年~文政8年 (1800~1825)	82,000石
15代 輝承	文政8年~天保10年 (1825~1839)	82,000石
16代 輝徳	天保10年~天保11年 (1839~1840)	82,000石



鳥川

西郭

別橋門

榎郭

赤坂門

23 威徳寺

2 大染寺

20 頼政神社

12 興禅寺

真浄庵

1 浅間山古墳

高崎市役所

14 光明寺

13 向雲寺

興禅寺地蔵堂

19 諏訪神社

24 真福寺

11 延養寺

10 安国寺

9 大信寺

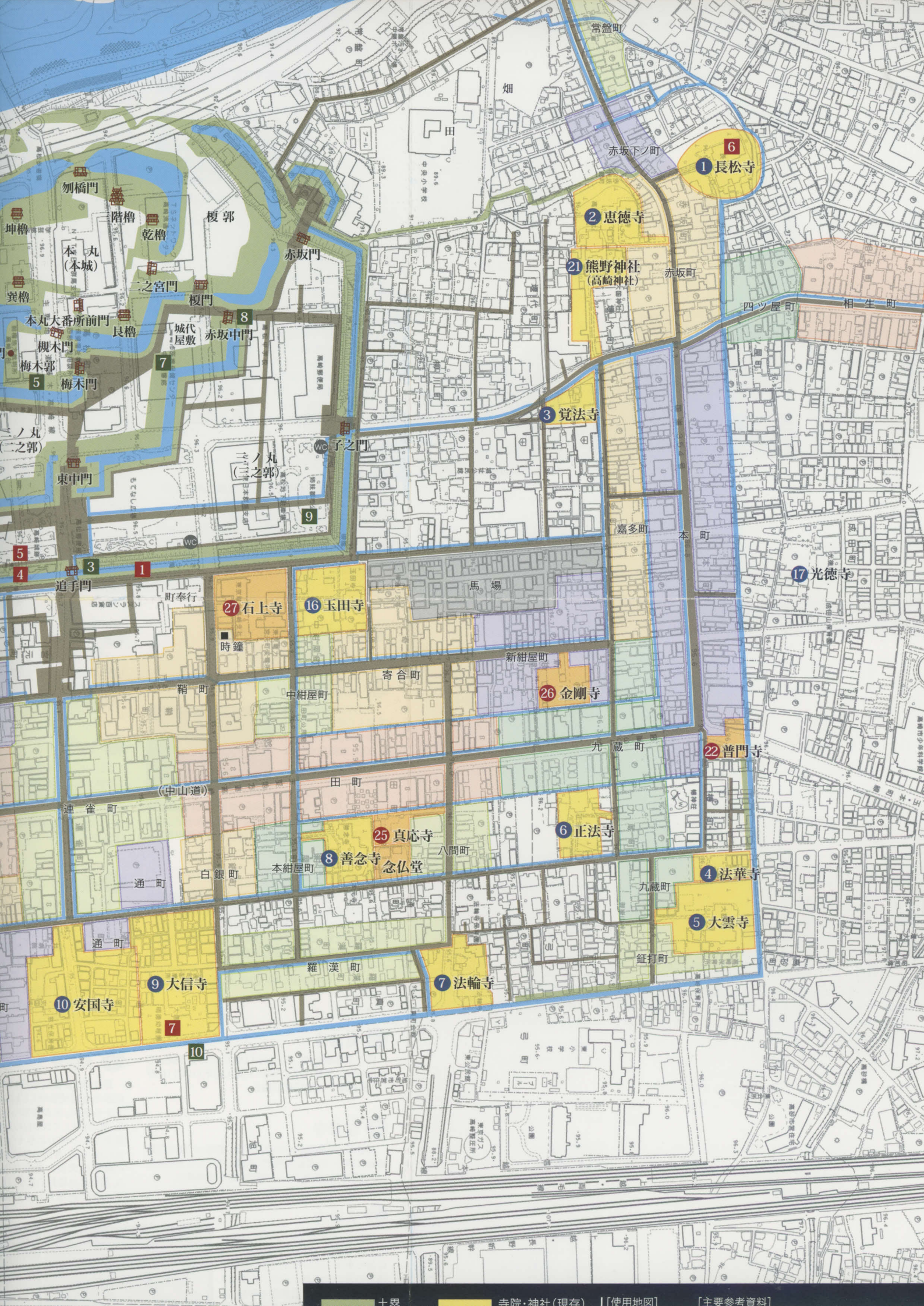
27 石上寺

16 玉田寺

25 真応寺

8 善念寺

高崎駅



1 長松寺

2 惠徳寺

21 熊野神社 (高輪神社)

3 覚法寺

17 光徳寺

27 石上寺

16 玉田寺

26 金剛寺

22 普門寺

6 正法寺

25 真応寺
念仏堂

8 善念寺

4 法華寺

5 大雲寺

9 大信寺

7 法輪寺

10 安国寺

7

10

高崎城(藩)と文化財

高崎城や高崎藩に関連する文化財は、乾櫓・東門・土塁・堀をはじめとして、高崎公園内のハクモクレン、徳川忠長の墓、忠長自刃の部屋、高崎という地名命名の舞台となった龍廣寺などが残されています。

文書関係の資料も、高崎城の縄張りなどを記した「高崎城大意」、大河内家10代にわたる治政や生活について記した「無銘書」(市重文)、高崎城関係の豊富な絵図を含む、櫻井家旧蔵「高崎城絵図並びに文書」(県重文)など多くの資料が残されています。

このうち櫻井家旧蔵「高崎城絵図並びに文書」は、元高崎藩士の家から本市に寄贈され、140点におよぶ絵図・文書類は貴重な資料として、県の重要文化財に指定されています。中には、県内に唯一残る城郭建築である乾櫓や本丸にあった三層の櫓の図面なども含まれています。

1 堀と土塁(城址公園)

通称「お堀」と呼ばれる高崎城三ノ丸堀と土塁[写真](市史跡)が当時の面影をとどめる。土塁に植えられた樹木は、「御城御土居通御植物木尺附絵図」に描かれているが、現在は春になると高崎城廃城後に植えられた桜の花見客で賑わう。



2 ハクモクレン(高崎公園)

ハクモクレン[写真]は元和5年(1619)に第5代高崎藩主安藤重信が、菩提寺である良善寺の庭に植えたものと伝えられる。樹齢は約400年。この地にあった良善寺は3代約80年にわたる藩主を勤めた安藤家の転封にともない移転したが、続く大河内の時代には大染寺が建立され、長く境内樹として守られてきた。その後、大染寺も廃寺となったが、ハクモクレンはそのまま残された。以前は、国の天然記念物に指定されていたが、現在は県の天然記念物となっている。3月末頃には白い花を咲かせるが、近年樹勢が衰えたため、囲柵を広くして樹勢の回復を図っている。



3 高崎の地名ゆかりの寺(龍廣寺)

龍廣寺[写真]は山門]は「高崎」という地名を直政に進言したとされる白庵和尚が開山したと言われる。「高崎志」によれば、直政が新たに城を築き箕輪から移る際に、和田の地名を松ヶ崎に改めたいと白庵に相談したところ、諸木には栄枯があるので「成功高大」という意味から高崎と名付けてはどうかと進言したというエピソードが残る。



4 乾櫓(城址公園)

乾櫓[写真]は、県内唯一の城郭建築として県の重要文化財に指定されている。もとは本丸の北西にあったが、明治初期に払い下げられ、近郊の農家で納屋として使用されていた。昭和51年に現在地へ復元された。櫓は二階建の入母屋造で、武器や食料などの収蔵施設と、敵の進入に対する防御施設を兼ねていたとされる。瓦の一部には、代々高崎藩主を勤めた大河内(松平)家の家紋である浮線蝶をあしらったものが使われている。



5 東門(城址公園)

高崎城の東門と伝わる建物で、明治初めに払い下げられた後、昭和55年に現在地に移築復元された[写真](市重文)。しかし、高崎城の絵図などに描かれた東門とは形状が異なる。一説には二ノ丸にあった藩主居室の門であるとも言われる。



6 徳川忠長自刃の部屋(長松寺)

長松寺の客殿[写真]は徳川忠長(駿河大納言)が自刃した部屋と伝えられている。当時は城内にあったが、不浄ということでこの寺に賜った。以降、長松寺の印半纏を付ければ城内への出入りは自由になったとされる。



7 徳川忠長の墓(大信寺)

忠長は徳川2代将軍秀忠の第3子で、3代将軍家光の弟として、甲斐をはじめ、信濃、駿河、遠江などを領し、55万石の高禄となり駿府城を居城としていたが、政治的な背景もあり非行があったという名目で、寛永9年(1632)には高崎城に幽閉され、翌10年に自刃した。忠長の墓[写真](市史跡)は43回忌にあたる延宝3年(1675)にようやく建てられた。周囲に玉垣をめぐらし鎖でつながれていたため「鎖のお霊屋」とも呼ばれた。かつては葵の紋を彫刻した唐門があったが戦災で焼失した。



墓石は五輪塔で、水輪の正面に「峯巖院殿御宝塔」と刻まれ、この院号がこのお寺の院号となっている。位牌、硯箱、袈裟、短刀、消息文なども残る。なお、高崎の主な藩主墓については、直政が滋賀県彦根市の清涼寺、安藤家が福島県いわき市の良善寺、大河内家が埼玉県新座市平林寺にある。

※文化財名に続く()内は現所在地 ※(県重文)は県指定重要文化財、(市史跡)は市指定史跡、(市重文)は市指定重要文化財

成の居城近江佐和山城(滋賀県彦根市)に転封となります。
城主松平(大河内)輝高らもいます。

下図:寛政5年「御門

近世の主なできごと

高崎のできごと		国内のできごと	
1598	井伊直政、箕輪城から和田城跡に移り、和田を高崎と改める	1600	関ヶ原の戦い 井伊直政、西軍石田三成の佐和山城を落城させる
1600	関ヶ原出陣の徳川秀忠、烏川出水のため3日間高崎に滞留する	1603	徳川家康が将軍となり、江戸幕府を開く
1606	酒井家次、高崎城下の整備に着手	1605	徳川秀忠、2代将軍となる
1615	酒井家次のもと、高崎城下4人衆が大坂夏の陣に従う	1614	大坂夏の陣が起る
1620	天竜護国寺の寺号勅願を再興	1615	大坂夏の陣か起る 豊臣氏滅亡 武家諸法度が制定される
1632	徳川忠長、徳川家光の命により、高崎城に幽閉される	1623	徳川家光、3代将軍となる
1633	徳川忠長、高崎城内で自刃	1635	参勤交代の制度が定められる
1667	安藤重博、高崎城本丸の工事に着手	1646	朝廷、初めて日光例幣使を派遣する
1675	駿河大納言忠長の墓、大信寺に造立(43回忌)	1657	水戸光圀「大日本史」編纂着手
1682	高崎城下で職人町ができる	1680	徳川綱吉、5代将軍となり、生類憐みの令を発布
1690	安藤重博、絹市場の開催を田町に限って認める	1688	柳沢吉保、側用人となる (この頃から、元禄文化が栄え始める)
1691	烏川水運のため後場河岸を開設	1692	井原西鶴「世間胸算用」を著す
1692頃	高崎城完成	1702	赤穂浪士吉良邸へ討ち入り
1699	江戸秤座4代目守藤彦太郎の3男彦三郎、高崎に秤座を開く	1707	富士山噴火(宝永山で起る)
1704頃	近江国などの商人が上州各地に出店を開く	1742	公事方御定書が制定される
1706頃	三井越後屋江戸綿店が田町に開設される	1782	天明の大飢饉はじまる
1755	西田美英「高崎寿奈子」を著す	1783	浅間山噴火(死者約2千人)
1763頃	高崎藩校「遊芸館」創設される	1802	十刃合一「東海道中膝栗毛」
1792	高崎藩士川野辺寛による「高崎志」3巻完成		
1793	岩鼻代官所完成。初代代官は吉川栄左衛門・近藤和四郎		
1802	伊能忠敬調査隊、高崎に来る(1803年・1809年)		

高崎城周辺の寺社

1 長松寺

永正4年(1507)、臨濟宗として創始。寛永元年(1624)、曹洞宗に改宗。和田義盛の持仏とされる木造和田薬師如来がある。本堂の龍[写真]と向拝の天女の天井絵及び涅槃画像の掛軸(市重文)は甘葉郡野上村(岡岡市)出身の狩野探雲によって描かれた。墓地には高崎藩の学者として著名な菅谷扇雲の墓がある。



2 恵徳寺

曹洞宗。天正年間(1573~1592)に直政の伯母恵徳院宗尼のため箕輪の地に恵徳院として創始。慶長3年(1598)に榎森(高崎城復讐付近)の北に移転し、恵徳寺と改称。城主酒井家次の時に現在地へ移転。一説に、直政が高崎の地名を進言したのは当寺開山の英潭和尚とも言われる(「高崎寿奈子」)。毎年8月10日の十一面観音まつりの際は、出店が並び参詣者で賑わう。

3 覚法寺

浄土宗本願寺派。天正8年(1580)に存謙が開山したと伝わる。万延元年(1860)と文久元年(1861)に写した高崎城下の絵図面が残る。

6 正法寺

日蓮宗。「高崎」に移転したとされる。治13年(1880)の50年に現本堂が建

7 法輪寺

天台宗。山号157体に及ぶ五百代(市重文)が安藤重博の作と推定され、角暦元年(1655)善順上人の修理で見された。境内に円石の一部が残る。

8 善念寺

浄土宗。天文9年開基は和田信輝、正故和尚。本尊の立像[写真](県重文)の作と推定され、角暦元年(1655)善順上人の修理で見された。境内に円石の一部が残る。

9 大信寺

浄土宗。京都知直政の高崎城築城下で移転。一説に、直政の高崎城築城下で移転。一説に、直政の高崎城築城下で移転。一説に、直政の高崎城築城下で移転。

1 浅間山古墳(公用車駐車場)

浅間山古墳は江戸時代の高崎に関する来歴などをまとめた川野辺寛の「高崎志」や絵図にも描かれている。発掘調査の結果、周堀の一部及び埴輪片が検出され、墳丘径が50m程の円墳(前方後円墳との指摘もある)であったことが判明した。浅間山古墳の名前は江戸時代以前より浅間社が置かれたことに由来し、当時は毎年6月15日に東門を一般に開放し多くの参詣人で賑わったとされる。三ノ丸の南側土塁の幅が広いのは古墳の名残である。

2 東門付近(シンフォニーロード)

土塁と東門があったとされる部分の調査を実施。土塁[写真]は版築により築かれていたことが判明。東門に関する遺構は検出されていない。土塁を取り除いた下面からは、中世の墓坑群が発見され、高崎城築城以前にあった興禅寺の墓地と推定される。



3 追手門北隅(高松郵便局)

北の子之門から城内に入り三ノ丸を通って追手門北隅から城下町に抜ける水路が描かれている絵図に一致する石組の側溝[写真]を検出。



4 杭列(シンフォニーロード)

シティギャラリーの部分に続く二ノ丸堀を検出。堀の崩壊を防止するため、土留めの杭[写真]が打たれている。



5 梅ノ木郭(裁判所)

本丸入口の小郭である「梅ノ木郭」を調査。調査部分は当時ほとんどが土塁であったため、郭内の状況は不明であるが、和田城との関連性のある中世の石積、井戸などを検出。

高崎城は西に自然の要害となる烏川が接し、残る三方を土塁と堀によって固められた囲郭式の城です。井伊直政(以下、直政)は、交通の要衝である和田の地に、徳川家康から大規模な城を築くよう命じられ、天正一八年(一五九〇)に落城した和田城を東へ拡張する形で城を築き、慶長三年(一五九八)、居城を箕輪から高崎に移しました。これが高崎城の始まりです。直政は、館林城の神原康政、酒井忠次、本多忠勝とともに徳川四天王のひとりに数えられ、「高崎」の地名も直政が命名したと伝えられます。三重の堀を巡らせた城郭や城下町の整備もこの頃から手がけられたと言われています。まもなく関ヶ原の戦いがあり、この戦で功績をあげた直政は慶長五年(一六〇〇)に西軍石田三成の居城近江佐和山城(滋賀県彦根市)に転封となります。

高崎城と藩主

その後の高崎城は、諏訪頼水が城番を勤め、酒井家次、松平(戸田)康長、松平(藤井)信吉とめまぐるしく城主が交代する時期が続きます。やがて、大坂夏の陣も終わり幕政も安定するようになった元和五年(一六一九)には安藤重信が下総小見川(千葉県香取市)から転封となり、以後三代にわたって安藤氏が藩政にあたりました。城下町としての基盤が整い、本丸に三層の櫓が築かれたのもこの頃と言われています。享保二年(一七一七)以降は、松平(大河内)氏が一〇代約一五〇年間にわたって藩政をつかさどり、輝聲の時に明治維新を迎えます。

歴代城主の中には、直政の他六代將軍家宣、七代將軍家継の側用人として活躍した九代城主間部詮房や老中として出世した一二代城主松平(大河内)輝高もいます。

下図:寛政5年「御門御櫓両別橋武者雪隠絵図」より「三階御櫓西面の図」(櫻井家旧蔵「高崎城絵図並びに文書」)

6 正法寺

日蓮宗。「高崎志」によれば、文禄2年(1593)年に箕輪より移転したとされる。本龍院日敬開山。享保10年(1725)、明治13年(1880)の火災により、仮本堂の時代が続くが、昭和50年に現本堂が落慶。

7 法輪寺

天台宗。山号は羅漢山。本堂内には157体に及ぶ五百羅漢像[写真](江戸時代・市重文)が安置されている。羅漢町の名はこの羅漢像に由来するとも言われる。郷土の絵師一椿斎芳輝の描いた「問引の図」も残る。



8 善念寺

浄土宗。天文9年(1540)創始。開基は和田信輝、開山は信輝の弟正故和尚。本尊の木造阿彌陀如来立像[写真](県重文)は鎌倉時代の作と推定され、解体修理の際、明暦元年(1655)善念寺第7世三菩提順応上人の修理記録が像内から発見された。境内には和田三石のうち円石の一部が残る。



9 大信寺

浄土宗。京都知恩院の末寺で、直政の高崎城築城とともに箕輪城下へ移転。中興は寛文一十一年(1721)に



10 安国寺

浄土宗。京都知恩院の末寺。山号は慈光山。明治9年(1876)の群馬県(第2次)成立時には一時県庁が置かれた。昭和38年の道路拡張により境内地の中心を現在の慈光通りが横断することになった。平成9年には、若田町に別院を建て墓地も移転。郷土史家で「更正高崎旧事記」の著者土屋老平、元貴族院議員桜井伊兵衛の墓がある。

11 延養寺

高野山真言宗。寺院明細帳には慶長3年(1598)直政より寺地を領し、現在地に移転したとある。享和2年(1802)にこの寺の住職となった良翁は佐野の船橋歌碑(市史跡)を残すなど文学的な才能も発揮した僧として名高い。円空円熟期の作である神像[写真](市重文)がある。



12 興禅寺

曹洞宗。創始は古く治承元年(1177)とされる。高崎城が築かれると、城内の三ノ丸に含まれたが、天保10年(1839)に墓地・堂宇を現在地に移転。明治28年(1895)の大火で堂宇は焼失したが、山門は焼失を免れた。これは、山門に画かれた武居梅坡の雲龍図の龍が水を吐いて止めたためと伝えられる。天文から天正年間(1532~1592)に画かれたとされる「和田城並びに興禅寺境内古絵図」(市重文)が残る。

13 向雲寺

15 龍廣寺

曹洞宗。山号は高崎山。慶長3年(1598)、直政が箕輪から高崎に移った際に創始。高僧白庵秀閑和尚を箕輪竜門寺から迎えて開山。大河内家とのゆかりも深く、最後の藩主輝聲の子の墓地がある。俳聖村上鬼城の墓や日露戦争の捕虜となったロシア兵の墓地[写真](市史跡)が残る。



16 玉田寺

真言宗豊山派。永正元年(1504)の創始。「高崎志」によれば、和田氏が開基。和田城の北東の方向にあり、和田城主の祈願所と言われる。

17 光徳寺

真言宗智山派。明治10年(1877)創始。松本有海開山。高崎藩時代の威徳寺内陣[写真](市重文)が現存する。光徳寺は成田山とも呼ばれる。



高崎城は西に自然の要害となる烏川が接し、残る三方を土塁と堀によって固められ、その後の高崎城は、諏訪頼水が城番を勤め、酒井家次、松平(戸田)康長、松平(藤井)信吉とめまぐるしく城主が交代する時期が続

1 浅間山古墳(公用車駐車場)

浅間山古墳は江戸時代の高崎に関する来歴などをまとめた川野辺寛の「高崎志」や絵図にも描かれている。発掘調査の結果、周堀の一部及び埴輪片が検出され、墳丘径が50m程の円墳(前方後円墳との指摘もある)であったことが判明した。浅間山古墳の名前は江戸時代以前より浅間社が置かれたことに由来し、当時は毎年6月15日に東門を一般に開放し多くの参詣人で賑わったとされる。三ノ丸の南側土塁の幅が広いのは古墳の名残である。

2 東門付近(シンフォニーロード)

土塁と東門があったとされる部分の調査を実施。土塁[写真]は版築により築かれていたことが判明。東門に関する遺構は検出されていない。土塁を取り除いた下面からは、中世の墓坑群が発見され、高崎城築城以前にあった興禅寺の墓地と推定される。



3 追手門北隅(高松郵便局)

北の子の門から城内に入り三ノ丸を通って追手門北隅から城下町に抜ける水路が描かれている絵図に一致する石組の側溝[写真]を検出。



4 杭列(シンフォニーロード)

シティギャラリーの部分に続く二ノ丸堀を検出。堀の崩壊を防止するため、土留めの杭[写真]が打たれている。



5 梅ノ木郭(裁判所)

本丸入口の小郭である「梅ノ木郭」を調査。調査部分は当時ほとんどが土塁であったため、郭内の状況は不明であるが、和田城との関連性のある中世の石積、井戸などを検出。

高崎城と発掘調査

高崎城内では、新市庁舎の建設などに伴い昭和60年度より二十数か所に及ぶ発掘調査が実施されました。その結果、障子堀を伴う二ノ丸堀、礎石の代わりに柱を支える板を敷いた大型建物跡、赤坂中門の土橋の下に埋めた石製の樋、城内の百数十本に及ぶ井戸跡の他、瀬戸美濃系や伊万里・唐津などの肥前系をはじめとした多量の陶磁器、さらには、明治期以降に置かれた歩兵第十五連隊にかかわる機関銃などの武器類、1万枚にも及ぶ認識票の他、兵舎跡、地下式防空壕などの遺構も検出されています。

6 二ノ丸堀(シティギャラリー)

高崎城を戦術的に解説した「高崎城大意」にはない障子堀[写真]を検出。障子堀は堀底を40cm程の深さで掘り込んだ不規則な長方形の区画を伴う障害物で、外敵が簡単に堀底を通過できないようにするための防御施設である。小田原城の障子堀は有名であるが、戦国から近世初期の城郭には比較的多く見られる。



二ノ丸堀の幅は18m(10間)程である。江戸時代の末には障子堀の部分は埋没し、機能は失われていたらしい。

7 二ノ丸(市立中央図書館)

図書館等の建設に伴う発掘調査により本丸堀と二ノ丸堀をつなぐ水路が発見された。堀の水量調節などの役割を果たしていたと思われる。水路の建設時期は高崎城築城時まで遡る可能性もあるが、18世紀後半までには機能を失って埋没し、その後石樋が設置された。現在は市立中央図書館前に移築されている。



また、この部分でも障子堀が検出されている。

8 赤坂中門(高松中学校)

絵図で赤坂中門付近の土橋とされた地点の発掘調査を実施。絵図のとおり土橋を検出。土橋は、一度掘り上げた後に、堀底部分に石製の暗渠を設けた土橋[写真]であることが判明。



9 三ノ丸北隅(姉妹都市公園)

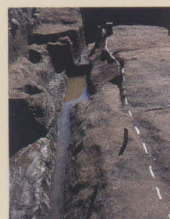
柱穴に礎石ではなく礎板を使った大型の建物跡[写真]を検出。この建物跡は南に庇を持っており、発掘調査では鍋島藩窯の花籠文裏白五寸皿ほか大量の陶磁器類が出土した。



この遺跡の下層では平安時代の水田跡も検出され、耕作地を造成して高崎城や城下町を造ったことが分かる。

10 遠構(真町付近)

高崎城下を区画する最も外側の堀[写真]を検出。城下を囲む形で土塁と堀が造られており、遠構と呼ばれた。土層の堆積から天明年間には既に埋まっている状況がうかがわれた。



15 龍廣寺

曹洞宗。山号は高崎山。慶長3年(1598)、直政が箕輪から高崎に移った際に創始。高僧白庵秀関和尚を箕輪竜門寺から迎えて開山。大河内家とのゆかりも深く、最後の藩主輝聲の子の墓地がある。俳聖村上鬼城の墓や日露戦争の捕虜となったロシア兵の墓地[写真](市史跡)が残る。



16 玉田寺

真言宗豊山派。永正元年(1504)の創始。「高崎志」によれば、和田氏が開基。和田城の北東の方向にあり、和田城主の祈願所と言われる。



17 光徳寺

真言宗智山派。明治10年(1877)創始。松本有海開山。高崎藩時代の威徳寺内陣[写真](市重文)が現存する。光徳寺は成田山とも呼ばれる。

19 諏訪神社

真田氏が信州諏訪より48の宝石を勧請したうちの1つが祀られている。同社は慶長4年(1599)に箕輪より高崎に遷座したが、享保14年(1729)、文化4年(1807)に火災に遭っている。現在の社殿は19世紀中頃の建築と推定される。本殿[写真]とともに御宝石が市の重要文化財に指定されている。



21 熊野神社(高崎神社)

13世紀中頃、和田義信の子、小太郎正信が榎森(高崎城榎郭付近)に勧請した熊野社を慶長3年(1598)、直政が高崎の総鎮守とするため、赤坂の現在地に移転し、明治40年(1907)に高崎神社となる。天文3年(1534)銘のある罫口[写真](市重文)が残る。隣にある美保大國神社は毎年11月にはえびす講で賑わう。

■ 廃寺

22 普門寺

新義真言宗。玉田寺の末寺。天正3年(1575)覚心が開山。本尊は大日如来と脇仏薬師如来。

25 真応寺

真言宗。「高崎志」では開山は清呼、「更正高崎旧日記」では開山は阿漚梨弘誓で寛永11年(1634)創

27 石上寺

新義真言宗。寺伝では、貞観16年(874)在原業平が大和国の石上寺を遷したとされる。慶長3年

20 頼政神社

高崎城主を代々勤めた大河内家の遠祖にあたる源頼政を祭った神社。大河内家初代藩主輝貞により元禄11年(1698)に石上寺境内に建立された。その後享保3年(1718)に現在地へ遷座。社宝には、稲妻の鎧[写真]・白銀造太刀・丁丑筆話(市重文)・諸大家連歌帖(県重文)がある。境内には内村鑑三の詠んだ漢詩「上州人」の碑が建てられている。



近世の主なできごと

高崎でのできごと		国内でのできごと	
1598	井伊直政、箕輪城から和田城跡に移り、和田を高崎と改める	1600	関ヶ原の戦い 井伊直政、西軍石田三成の佐和山城を落城させる
1600	関ヶ原出陣の徳川秀忠、烏川出水のため3日間高崎に滞留する	1603	徳川家康が将軍となり、江戸幕府を開く
1606	酒井家次、高崎城下の整備に着手	1605	徳川秀忠、2代将軍となる
1615	酒井家次のもと、高崎城下4人衆が大坂夏の陣に従う	1614	大坂冬の陣が起こる
1620	天護護国寺の寺号勅額を再興	1615	大坂夏の陣が起こり、豊臣氏滅亡 武家諸法度が制定される
1632	徳川忠長、徳川家光の命により、高崎城に幽閉される	1623	徳川家光、3代将軍となる
1633	徳川忠長、高崎城内で自刃	1635	参勤交代の制度が定められる
1667	安藤重博、高崎城本丸の工事に着手	1646	朝廷、初めて日光例幣使を派遣する
1675	駿河大納言忠長の墓、大信寺に造立(43回忌)	1657	水戸光圀『大日本史』編纂着手
1682	高崎城下に職人町ができる	1680	徳川綱吉、5代将軍となり、生類憐みの令を発布
1690	安藤重博、絹市場の開催を田町に限って認める	1688	柳沢吉保、側用人となる (この頃から、元禄文化が栄え始める)
1691	烏川水運のため筏場河岸を開設	1692	井原西鶴『世間胸算用』を著す
1692頃	高崎城完成	1702	赤穂浪士吉良邸へ討ち入り
1699	江戸秤座4代目守随彦太郎の3男彦三郎、高崎に秤座を開く	1707	富士山噴火(宝永山でできる)
1704頃	近江国などの商人が上州各地に出店を開く	1742	公事方御定書が制定される
1706頃	三井越後屋江戸綿店が田町に開設される	1782	天明の大飢饉はじまる
1755	西田美英「高崎寿奈子」を著す	1783	浅間山噴火(死者約2千人)
1763頃	高崎藩校「遊芸館」創設される	1802	十辺舎一九『東海道中膝栗毛』
1792	高崎藩士川野辺寛による『高崎志』3巻完成	1804頃	化政文化が栄え始める
1793	岩鼻代官所完成。初代代官は吉川栄左衛門・近藤和四郎	1825	異国船打払令
1802	伊能忠敬調査隊、高崎に来る(1803年・1809年)	1837	大塩平八郎の乱
1823	北辰一刀流千葉周作、高崎を訪れる	1853	ペリーが浦賀に来る
1842	志倉西馬、芭蕉150回忌に句集『花の雲』を編纂し、清水寺で句会を開く	1854	日米和親条約
1850	国定村忠次郎、関所破りの罪で大戸村へ送られる途中、倉賀野宿に宿泊する	1855	安政の大地震起こる
1861	皇女和宮、高崎城下を通行	1858	日米修好通商条約
1864	下仁田戦争(高崎藩士ら36人戦死)	1866	徳川慶喜、15代将軍となる
1869	五万石騒動起こる 大河内柳聲、版籍奉還を受諾	1867	大政奉還・王政復古の号令
1871	廃藩置県により高崎県となる	1868	明治改元
		1869	東京に遷都
		1872	官営富岡製糸場操業開始

高崎城周辺の寺社

1 長松寺

永正4年(1507)、臨濟宗として創始。寛永元年(1624)、曹洞宗に改宗。和田義盛の持仏とされる木造和田葉師如来がある。本堂の龍[写真]と向拝の天女の天井絵及び涅槃像の掛軸(市重文)は甘楽郡野上村(富岡市)出身の狩野探雲によって描かれた。墓地には高崎藩の学者として著名な菅谷焜雲の墓がある。



2 恵徳寺

曹洞宗。天正年間(1573~1592)に直政の伯母恵徳院宗尼のため箕輪の地に恵徳院として創始。慶長3年(1598)に榎森(高崎城榎郭付近)の北に移転し、恵徳寺と改称。城主酒井家次の時に現在地へ移転。一説に、直政が高崎の地名を進言したのは当寺開山の英潭和尚とも言われる(「高崎寿奈子」)。毎年8月10日の十一面観音まつりの際は、出店が並び参詣者で賑わう。

3 覚法寺

浄土宗本願寺派。天正8年(1580)に存諦が開山したと伝わる。万延元年(1860)と文久元年(1861)に写した高崎城下の絵図面が残る。

4 法華寺

日蓮宗。箕輪椿山に法華堂として創始。直政の高崎移転に伴い、西郷藤左衛門(直政の家臣)により慶長3年(1598)に法華寺として建立。山号は西郷山。

5 大雲寺

曹洞宗。弘治年間(1555~1558)に箕輪に創始。慶長4年(1599)に現在地に移転。直政転封の際、本寺と同名の末寺を彦根に創始。本堂には近代高崎の画人武居梅坡の襖絵「水墨雲龍図」(市重文)があったが、保存のため屏風[写真]に改装された。墓地には山本勘助子孫の墓がある。



6 正法寺

日蓮宗。「高崎志」によれば、文禄2年(1593)年に箕輪より移転したとされる。本龍院日敬開山。享保10年(1725)、明治13年(1880)の火災により、仮本堂の時代が続くが、昭和50年に現本堂が落慶。

7 法輪寺

天台宗。山号は羅漢山。本堂内には157体に及ぶ五百羅漢像[写真](江戸時代・市重文)が安置されている。羅漢像の名はこの羅漢像に由来するとも言われる。郷土の絵師一椿斎芳輝の描いた「間引の図」も残る。



8 善念寺

浄土宗。天文9年(1540)創始。開基は和田信輝、開山は信輝の弟正故和尚。本尊の木造阿弥陀如来立像[写真](県重文)は鎌倉時代の作と推定され、解体修理の際、明暦元年(1655)善念寺第7世三誉順上人の修理記録が像内から発見された。境内には和田三石のうち円石の一部が残る。



9 大信寺

浄土宗。京都知恩院の末寺で、直政の高崎城築城とともに箕輪城下から移転。忠長を葬ったことから、供養料として100石の朱印地が寛文3年(1663)に与えられた。寺宝には、豊臣秀頼の陣羽織(袈裟に改作)、忠長のお消息文などがある。墓地には忠長の墓、江戸の秤座守随家4代の3男守随彦三郎の墓[写真](市重文)がある。



10 安国寺

浄土宗。京都知恩院の末寺。山号は慈光山。明治9年(1876)の群馬県(第2次)成立時には一時県庁が置かれた。昭和38年の道路拡張により境内地の中心を現在の慈光通りが横断することとなった。平成9年には、若田町に別院を建て墓地も移転。郷土史家で「更正高崎旧事記」の著者土屋老平、元貴族院議員桜井伊兵衛の墓がある。

11 延養寺

高野山真言宗。寺院明細帳には慶長3年(1598)直政より寺地を領し、現在地に移転したとある。享和2年(1802)にこの寺の住職となった良翁は佐野の船橋歌碑(市史跡)を残すなど文学的な才能も発揮した僧として名高い。円空円熟期の作である神像【写真】(市重文)がある。



12 興禅寺

曹洞宗。創始は古く治承元年(1177)とされる。高崎城が築かれると、城内の三ノ丸に含まれたが、天保10年(1839)に墓地・堂宇を現在地に移転。明治28年(1895)の大火で堂宇は焼失したが、山門は焼失を免れた。これは、山門に画かれた武居梅坡の雲龍図の龍が水を吐いて止めたためと伝えられる。天文から天正年間(1532~1592)に画かれたとされる「和田城並びに興禅寺境内古絵図」(市重文)が残る。

13 向雲寺

曹洞宗。元和5年(1619)に伝州忠の和尚が開山。藩主安藤重博の時に、現在地に移転したため、重博が中興開基とされる。境内にある珊瑚樹は市の保存樹木。【写真は山門】



14 光明寺

高野山真言宗。至徳2年(1385)行者晴海が安楽院遍照坊を建立。2代高崎藩主酒井家次が、日天子・月天子の宮と仏殿を建立し、光明寺と命名。本尊は日天子の秘仏阿彌陀如来であったが、現在は不動明王となっている。内村鑑三家5代の墓や高崎藩の刀工長谷部義重の墓がある。

15 龍廣寺

曹洞宗。山号は高崎山。慶長3年(1598)、直政が箕輪から高崎に移った際に創始。高僧白庵秀閑和尚を箕輪竜門寺から迎えて開山。大河内家とのゆかりも深く、最後の藩主輝聲の子の墓地がある。俳聖村上鬼城の墓や日露戦争の捕虜となったロシア兵の墓地【写真】(市史跡)が残る。



16 玉田寺

真言宗豊山派。永正元年(1504)の創始。「高崎志」によれば、和田氏が開基。和田城の北東の方向にあたり、和田城主の祈願所と言われる。

19 諏訪神社

真田氏が信州諏訪より48の宝石を勧請したうちの1つが祀られている。同社は慶長4年(1599)に箕輪より高崎に遷座したが、享保14年(1729)、文化4年(1807)に火災に遭っている。現在の社殿は19世紀中頃の建築と推定される。本殿【写真】とともに御宝石が市の重要文化財に指定されている。



21 熊野神社(高崎神社)

13世紀中頃、和田義信の子、小太郎正信が榎森(高崎城榎郭付近)に勧請した熊野社を慶長3年(1598)、直政が高崎の総鎮守とするため、赤坂の現在地に移転し、明治40年(1907)に高崎神社となる。天文3年(1534)銘のある鬮口【写真】(市重文)が残る。隣にある美保大国神社は毎年11月にはえびす講で賑わう。

■ 廃寺

22 普門寺

新義真言宗。玉田寺の末寺。天正3年(1575)覚心が開山。本尊は大日如来と脇侍薬師如来。明治5年(1872)、井野の観音寺(現在は廃寺)に合併。

23 威徳寺

天台宗。大河内輝貞の時に堂宇を城内に創建し、城主の祈願所とした。輝貞の院号から、この寺の院号が天休院となったとされる。

24 真福寺

高野山真言宗延養寺の末寺。寛永7年(1630)に弘清が開山し、明治初期に廃寺。

25 真応寺

真言宗。「高崎志」では開山は清咩、「更正高崎旧日記」では開山は阿遮梨弘誓で寛永11年(1634)創建とされる。毎年7月17日の夜は観音参詣で賑ったという。享保2年(1717)に鑄造された銅造の阿彌陀如来坐像(市重文)があったが、現在は明治41年(1908)に合併された本寺の光明寺(柴崎町)に露仏として安置されている。

26 金剛寺

天台宗。神竜山法泉院。本尊は阿彌陀如来。別当を勤めた諏訪神社は慶長4年(1599)に箕輪から移ってきたとされ、大河内輝規が寄附した額があったという。明治8年(1875)に廃寺。

27 石上寺

新義真言宗。寺伝では、貞観16年(874)在原業平が大和国の石上寺を遷したとされる。慶長3年(1598)住職第59世賢方が直政の高崎城築城時に箕輪から鶴町に移転。元禄3年(1690)に宮元町に移転。明治初期に三ツ寺村(三ツ寺町)の石上寺へ移転。

28 大染寺

真言律宗。大河内家が元禄8年(1695)に建立。安藤氏が藩主の時代には安藤氏建立の良善寺と言う寺がここにあった。大染寺は頼政神社の別当を勤め、壮麗な伽藍があったが、明治7年(1874)に熊谷の養平寺と合併し廃寺。

20 頼政神社

高崎城主を代々勤めた大河内家の遠祖にあたる源頼政を祭った神社。大河内家初代藩主輝貞により元禄11年(1698)に石上寺境内に建立された。その後享保3年(1718)に現在地へ遷座。社宝には、稲妻の鎧【写真】・白銀造太刀・丁丑筆話(市重文)・諸大家連歌帖(県重文)がある。境内には内村鑑三の詠んだ漢詩「上州人」の碑が建てられている。



高崎藩歴代藩主

藩主	期間(西暦)	石高(当初)
初代 井伊直政	慶長3年～慶長5年 (1598～1600)	120,000石
城番 諏訪頼水	慶長5年～慶長6年 (1600～1601)	—
2代 酒井家次	慶長9年～元和2年 (1604～1616)	50,000石
3代 松平(戸田)康長	元和2年～元和3年 (1616～1617)	50,000石
4代 松平(藤井)信吉	元和3年～元和5年 (1617～1619)	50,000石
5代 安藤重信	元和5年～元和7年 (1619～1621)	56,600石
6代 重長	元和7年～明暦3年 (1621～1657)	56,600石
7代 重博	明暦3年～元禄8年 (1657～1695)	60,000石
8代 松平(大河内)輝貞	元禄8年～宝永7年 (1695～1710)	52,000石
9代 間部詮房	宝永7年～享保2年 (1710～1717)	50,000石
10代 松平(大河内)輝貞	享保2年～延享2年 (1717～1745)	72,000石
11代 輝規	延享2年～寛延2年 (1745～1749)	72,000石
12代 輝高	寛延2年～天明元年 (1749～1781)	72,000石
13代 輝和	天明元年～寛政12年 (1781～1800)	82,000石
14代 輝延	寛政12年～文政8年 (1800～1825)	82,000石
15代 輝承	文政8年～天保10年 (1825～1839)	82,000石
16代 輝徳	天保10年～天保11年 (1839～1840)	82,000石
17代 輝充	天保11年～弘化3年 (1840～1846)	82,000石
18代 輝聴	弘化3年～万延元年 (1846～1860)	82,000石
19代 輝聲	万延元年～明治2年 (1860～1869)	82,000石

(『新編高崎市史』通史編3年表を参考に作製)



- 土塁
- 寺院・神社(現存)
- 水路(堀)
- 廃寺・移転
- 道路
- 町(当時)



[使用地図]

高崎市地形図
(2千5百分の1を拡大)

[主要参考資料]

『高崎市史』第3巻(1968)
『新編高崎市史』資料編5近世I(2002)
付図1・2 文化7年6月 御城内外惣絵図(寺社・作図)
付図5 年次不詳 高崎御城内外縮図(町名)

※本丸大番所前門の名称及び埋門は御門御櫓両列儀武者雪隠絵図等による。
※五軒町、赤坂下ノ町、鉦打町、八間町、代官町、前蔵町、大工町、新喜町は現存しない町名。



文化財愛護
シンボルマーク

・文化財を見学する際は、
マナーを守りましょう。

・紹介した文化財には、
常時公開されていない
ものもあります。

発行・お問合せ
高崎市教育委員会文化財保護課

高崎市高松町35番地1 〒370-8501
TEL:027-321-1292(直通) FAX:027-328-2295
http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121600071/
E-mail:ky-bunkazai@city.takasaki.lg.jp
平成29年10月 第7版発行